

令和 8 年 6 月 2 6 日	病害虫発生予報 7 月 号	茨城県病害虫防除所
---------------------	------------------	-----------

防護装備（マスク・保護メガネ・防護衣）をきちんと着用しましょう

～令和 8 年度茨城県農薬危害防止運動期間（6/15～9/14）～

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
水稻：いもち病（葉いもち）・・・・・・・・・・・・・・・・	1
【防除所レポート】BLASTAM による葉いもちの感染好適条件の状況について・・・・・・・・	1
○水稻の斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう！・・・・・・・・	2
○水稻における紋枯病の防除対策について・・・・・・・・	3
サツマイモ：ナカジロシタバ・・・・・・・・	3
ナシ：黒星病・・・・・・・・	4
ナシ：ナシヒメシンクイ（第三世代幼虫）・・・・・・・・	4
【防除所レポート】ナシヒメシンクイの防除適期の予測・・・・・・・・	5
果樹共通：果樹カメムシ類	
（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）・・・・・・・・	5
夏ネギ：ネギアザミウマ・・・・・・・・	6
共通害虫：オオタバコガ・・・・・・・・	6
共通害虫：シロイチモジヨトウ・・・・・・・・	7
○サツマイモ基腐病の発生に注意しましょう・・・・・・・・	7
【その他の病害虫】水稻、ナシ、ブドウ、夏ネギ、夏秋ナス・・・・・・・・	8
II. 今月の気象予報	9

最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの
「農薬登録情報提供システム」（<https://pesticide.maff.go.jp/>）で確認することができます。

詳しくは、茨城県病害虫防除所へお問い合わせ下さい。Tel :0299-45-8200

ホームページでは病害虫・フェロモントラップ・農薬関連情報がご覧いただけます。

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/>



※病害虫の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病害虫の防除や
農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病害虫防除所等の指導機関にお問い合わせ
ください。

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、調査圃場の葉いもちの発病度¹⁾（本年値0、平年値0.1）、発生地点率（本年値0%、平年値4%）ともに平年よりやや低い～低い。
- ② 葉いもちの感染好適条件（BLASTAM²⁾による）は、6月第4半旬に鹿行地域、第5半旬に県北地域の一部で認められた。6月25日までの県内の出現日数は平年よりやや少ない～少ない（下記、防除所レポート参照）。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年より多いと予想され、発生を助長する条件である。
 - 1) 発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。
 - 2) BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗はいもち病の発生源となるため、現在水田に置苗がある場合には、水田やその周辺に放置せず、持ち出して適切に処分する。
- ② イネの葉色が濃い所や水口等を観察し、初発の確認に努め、発生初期に防除を実施する。
- ③ 例年、梅雨明けまでは発生が増加するため、現在発生がみられない水田でも注意する。
- ④ 粒剤等で防除する際は、効果が現れるまで時間がかかるため使用時期に注意するとともに、湛水状態で薬剤を散布し、1週間は止水して湛水状態を保つ。
- ⑤ 殺菌剤を複数回使用する場合、薬剤感受性の低下を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤を選択する。

防除所レポート [BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の状況について]

- ① 葉いもちの感染好適条件（BLASTAM¹⁾による）は、6月第4半旬に鹿行地域、第5半旬に県北地域の一部で認められた。6月25日までの県内の出現日数は平年よりやや少ない～少ない（表）。
- ② 曇雨天が続く等、発病の好適条件が見られる場合はいもち病の発生に注意する。なお、葉いもちの発病は、感染好適条件が出現した日から7～10日後に始まると考えられる。
- ③ 各地点のBLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の詳細については、病害虫防除所ホームページで情報を随時更新しているので参考にする。

1)BLASTAM：アメダスデータ4要素（気温、降水量、風速、日照）から、その日が葉いもちの感染に好適であったかを判定するプログラム。

表 BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の地域別の平均出現日数（6/1～6/25）

	県北	県央	鹿行	県南	県西
本年値	0.3	0	1.0	0	0
平年値	1.3	1.7	1.9	2.1	2.2

注）BLASTAMは、広域にいもち病が感染する時期を推定するシステムであり、特定地点の発生を予測するものではなく、周辺地点の感染好適条件の出現状況も併せて判断する。最寄りのアメダス地点で感染好適条件が出現していなくても、圃場によっては感染に好適な条件になっている場合もある。

水稻の斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう！

～近年発生の多い地域や常発地では特に注意して下さい～

本県において斑点米カメムシ類による斑点米は、等級格下げの要因の一つになっています。クモヘリカメムシ（写真1）、アカスジカスミカメ（写真2）等の斑点米カメムシ類の成虫は、水稻の出穂前は畦畔や周辺のイネ科雑草地に生息し、出穂とともに水田に侵入します。6月下旬に水田周辺のイネ科雑草地ですくい取り調査をした結果、斑点米カメムシ類は平年よりやや多い発生でした（表）。なお、近年、発生が多くなっているイネカメムシ（写真3）は他の斑点米カメムシとは異なり、越冬場所から早生品種の出穂に伴って水田に直接飛来する傾向があります。

周辺水田と出穂期が異なる水田は、集中的に被害を受けるおそれがあるので注意して下さい。

〔防除対策〕

- ① 水田周辺のイネ科雑草は、カメムシ類の生息場所となるので除草に努める。ただし、水稻の出穂期近くに除草すると、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、出穂直前の畦畔等の草刈は行わず、水稻の出穂2週間前までに終わらせる。
- ② 水田内の雑草（ヒエ・イヌホタルイ）はカメムシ類を呼び込むので、除草に努めるとともに、水田内にカメムシ類が生息していないかよく観察する。
- ③ 登熟初期にイネカメムシによって集中的に稲穂を吸汁加害されると、著しい不稔被害が発生することがある。本種の発生が多い地域では、不稔被害の軽減を目的とした防除を出穂期～穂揃期に行う。
- ④ 乳熟期以降にカメムシ類の幼虫密度が高いと斑点米の発生量が多くなる。斑点米被害の軽減を目的とした防除は、出穂後10～15日頃（乳熟期）に行う。防除を実施した水田であっても、その後に幼虫のふ化や新成虫の再飛来があるため、発生を認めた場合は追加防除を実施する。
- ⑤ 防除の際には、収穫前日数や使用回数、周辺作物（特に早生品種を作付している水田）への飛散に注意する。

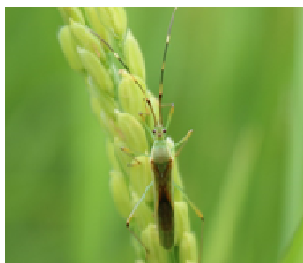


写真1 クモヘリカメムシ(成虫)

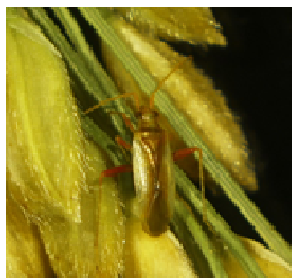


写真2 アカスジカスミカメ(成虫)



写真3 イネカメムシ(成虫)

表 水田周辺の雑草地における斑点米カメムシ類の発生量（6月下旬調査）

地域	調査 地点数	すくい取り虫数(頭/10回振り)		
		本年	平年	順位
県北	1	2.0	7.9	5
県央	2	1.0	3.1	7-9
鹿行	1	12.0	11.7	3
県南	4	10.8	4.8	3
県西	2	16.5	5.5	1
全県	10	9.2	5.5	3

平年：平成28年～令和7年までの10年間の平均値。

順位：本年を含む過去11年間における本年値の順位。

虫種：アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ

水稻における紋枯病の防除対策について

紋枯病は、前年のイネの病斑上に形成された菌核が圃場にとどまり次作の伝染源となるため、毎年同じ圃場で発生しやすい傾向があります。昨年、発生が多かった圃場では特に注意して対策を行いましょう。

〔特徴〕

前年の被害株や畦畔等の罹病雑草に形成された菌核で越冬し、伝染源となる。菌核は代かき時に水面に浮上し、株元に漂着する。気温が上昇し、株間の湿度が高くなると、菌核から発芽した菌糸が伸長して葉鞘内に侵入し、楕円形病斑をつくる。本病にかかると、下葉から次第に枯れ上がり、イネの茎が弱くなって倒伏しやすくなる。

〔防除上注意すべき事項〕

- ① 前年発生がみられた圃場では本病が発生しやすいため特に注意し、発生が認められた場合には早期に防除を行う。
- ② 病斑は水際に近い下部の葉鞘から現れ、次第に上位に進展するため、薬剤散布は下部の葉鞘にまでかかるように行う。

サツマイモ

1. ナカジロシタバ

〔予報内容〕

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

〔予報の根拠〕

- ① 6月下旬現在、被害つる先率（本年値 5.6%、平年値 3.9%）は平年並、発生地点率（本年値 80%、平年値 34%）は平年よりやや高い。
- ② 6月下旬現在、100 葉当たりの寄生虫数（本年値 0.8 頭、平年値 0.3 頭）は平年よりやや多く、発生地点率（本年値 20%、平年値 14%）は平年並である。

〔防除上注意すべき事項〕

- ① 老齢幼虫になると薬剤の効果が低くなるので、若齢～中齢幼虫の時期（つる先や上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期）の防除に努める。
- ② 薬剤散布の際は、幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、発病葉率（本年値 0.2%、平年値 0.7%）、発生地点率（本年値 20%、平年値 51%）ともに平年より低い。
- ② 6月下旬現在、発病果率（本年値 0.1%、平年値 0.3%）は平年並～やや低く、発生地点率（本年値 15%、平年値 34%）は平年よりやや低い。
- ③ 気象予報によると、向こう 1 か月の降水量は平年より多いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した葉および果実等は二次伝染源となるため見つけ次第除去し、園外に持ち出して適切に処分する。
- ② 薬剤散布は、発病部位を除去した後に行うとより効果的である。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

2. ナシヒメシンクイ（第三世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、被害果を認めず平年並である。
- ② 6月第3半旬までのフェロモントラップへの総誘殺数は、笠間市、小美玉市で平年より多く、筑西市（下館地域）では平年並～やや多く、筑西市（関城地域）、土浦市では平年並、かすみがうら市では平年並～やや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果実を見つけた場合は、速やかに処分し、成虫の発生を防ぐ。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

（次ページ、防除所レポート参照）

防除所レポート [ナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第三世代幼虫を対象とした防除適期は、第二世代成虫の誘殺数がピークに達した日の1～2日後である。
- ② 各地点の第二世代成虫の誘殺最盛期は、第一世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から予測した。
- ③ 表中のかすみがうら市、土浦市、筑西市(下館地域)については、今後、病害虫防除所ホームページで誘殺状況を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第三世代幼虫の予測防除適期

地点	第三世代幼虫の予測防除適期 ¹⁾	
笠間市	7月16日～	7月19日
小美玉市	7月10日～	7月14日
かすみがうら市	7月9日～	7月12日
土浦市	7月12日～	7月15日
筑西市(下館地域)	7月2日～	7月8日
筑西市(関城地域)	7月11日～	7月14日

1) 第二世代成虫の誘殺最盛期を基に予測した(6月26日現在)。

果樹共通

1. 果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、被害果率(本年値0%、平年値0.02%)、発生地点率(本年値0%、平年値6%)ともに平年並～やや低い。
- ② 6月第3半旬までのかすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯への果樹カメムシ類の総誘殺数(本年値1,671頭、平年値326頭)は平年より多い。
- ③ 6月第3半旬までの笠間市の果樹園内に設置した予察灯への果樹カメムシ類の総誘殺数(本年値428頭、平年値685頭)は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① カメムシ類の園内への侵入を防ぐため、多目的防災網(目合い6mmまたは9mmクロス等のネット)やサイドネットに破れがないか点検を行い、必要に応じて補修する。
- ② カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になり、果樹園に飛来する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ③ カメムシ類の発生時期や発生量は地域や圃場によって異なるため、定期的に圃場全体を観察し、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。

夏ネギ

1. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、被害度※（本年値 30.8、平年値 26.0）は平年よりやや高い～高く、芯葉の被害株率（本年値 81.5%、平年値 80.5%）は平年並である。

※被害度：食害の程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 気温の上昇に伴って増殖が速くなるので、発生圃場では速やかに防除を実施する。
- ② 雑草にも寄生するため、圃場周辺の除草を徹底する。
- ③ 薬剤散布の際は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ④ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

共通害虫

1. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、4月第1半旬からのフェロモントラップへの総誘殺数は、水戸市および笠間市で平年より多く、龍ヶ崎市で平年よりやや多い～多く、坂東市で平年よりやや多く、土浦市で平年並～やや多く、筑西市で平年並である。
- ② 6月下旬現在、ナス圃場で発生を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 中齢以降になると薬剤の効果が低くなるので、圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を行う。
- ② 幼虫が作物内に食入するとその後の防除が困難になるため、早期発見に努め、防除を徹底する。
- ③ 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元までよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 病害虫防除所ホームページに、フェロモントラップの誘殺状況を公開しているので参考にする。

(共通害虫 続き)

2. シロイチモジヨトウ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、5月第1半旬からのつくば市に設置したフェロモントラップへの総誘殺数は、平年よりやや多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 中齢以降になると薬剤の効果が低くなるので、圃場をよく観察し、集団で生息する若齢幼虫の早期発見に努め、防除を徹底する。
- ② 幼虫が作物内に食入するとその後の防除が困難になるため、早期発見に努め、防除を徹底する。
- ③ 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

サツマイモ基腐病の発生に注意しましょう

定期的に圃場を見回り、異常株を早期に発見しましょう！

◎圃場に発病株が残っていると、発病部位でサツマイモ基腐病菌の胞子が大量に作られます。
病原菌の胞子は、降雨等で拡散するため、圃場内に基腐病がまん延します。



- しおれ症状や繁茂不良などが見られる。
- 葉が黄色や赤色に変色している。
- 株の基部が暗褐色～黒色になっている。

※疑わしい株を見つけた場合は、速やかに最寄りの農業改良普及センターに連絡してください。

◎茨城県では、予防対策の徹底と防疫措置を強化するため、令和8年4月に茨城県総合防除計画の遵守事項の見直しを行いました。

<サツマイモ基腐病に関する遵守事項について(改定後)> ➡



【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況および注意すべき事項
水稲	縞葉枯病	発生量：平年並	6 月下旬現在、一部圃場で発生を認めている。県西地域、県南の一部地域におけるヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は、11 地点中 2 地点で 5%以上の高い値となった（5 月 29 日発表 病害虫発生予報 6 月号 p2 防除所レポート参照）。
	イネツトムシ		6 月下旬現在、平年並の発生である。葉色が濃い水田では発生に注意し、発生が多い場合には、幼虫が小さいうち（葉先が巻かれ始める時期）に防除を実施する。
	ニカメイガ	発生量：平年並 ～やや少ない	6 月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。
ナシ	ハダニ類	発生量：平年並	6 月下旬現在、平年並の発生である。今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので、発生圃場では速やかに防除を実施する。
ブドウ	晩腐病	発生量：平年並	6 月下旬現在、平年並の発生である。参考防除例を参考に、袋掛け前の防除を徹底する。
	褐斑病		
	黒とう病		
	べと病		
夏ネギ	黒斑病（葉枯病を含む）	発生量：平年並	6 月下旬現在、平年並の発生である。
	べと病		
	ネギハモグリバエ		6 月下旬現在、平年並の発生である。今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので、発生圃場では速やかに防除を実施する。
夏秋ナス	ハダニ類	発生量：多い	6 月下旬現在、平年より多い発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	6 月下旬現在、平年並～やや多い発生である。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 6 月 27 日から 7 月 26 日)

気象庁 (6 月 25 日 発表)

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
	気温	関東甲信全域	10	40	50
	降水量	関東甲信全域	30	30	40
	日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

< 1 週目の予報 > 6 月 27 日 (土曜日) から 7 月 3 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 20%

< 2 週目の予報 > 7 月 4 日 (土曜日) から 7 月 10 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 7 月 11 日 (土曜日) から 7 月 24 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

予報に掲載の病害虫を防除する場合は、「茨城県総合防除計画」の別表 2—1 を参考に化学農薬のみに依存しない「総合防除」を心がけてください。

茨城県総合防除計画



農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類（FRAC コード、IRAC コード）の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。